

## 大会申合せ事項並びに注意事項

1. チャレンジマッチ大会は、2022 年度公益財団法人の日本バレーボール 6 人制競技規則による。
2. すべての競技参加者は、ルールを順守し、フェアプレーの精神で試合に参加する。
3. ベンチには、有効に登録された部長 1 名、監督 1 名、コーチ 1 名、マネージャー 1 名、トレーナー 1 名、選手 14 名の計 19 名以内の着席を認める。(但し、マネージャーは当該大学生であること。)
4. 試合毎に 14 名まで (13 名以上の場合は 2 名がリベロプレーヤー登録) を選抜することとする。なお、公式ウォームアップに際しては 19 名以外の者にユニフォームを着用しない 5 名が隣のコートにボールが入らないようにボール拾いを認める。
5. 試合日程中の部長・監督の途中交代については代表者会議時のエントリー変更・追加用紙による正式届け出があった場合のみ、有効に登録されたコーチはまたは O B 等が代理として任務を代行することができる。但し、代理監督も J V A における (T S) 登録済であることが条件となる。
6. 部長、監督、コーチ、マネージャー、トレーナーの記章はチームで準備する。記章のついていない場合は、ベンチに入ることを認めない。なお、記章は左胸につける。
7. 試合開始後に部長、監督、コーチ、マネージャー及びトレーナーが遅れてきた場合は、すぐにベンチへの着席を認める。その際、監督はキャプテンの通告後、次のラリーより監督の任務を行使できる。監督は、次のセット間に記録用紙へサインをすることとする。選手の場合は、すぐに試合に参加できる。
8. トスは記録席前で行う。トスに勝ったものがサーブ権 (サーブをするか、サーブを受ける権利) または、コートを選ぶ権利の 2 つから 1 つを選択できる。サーブ権を得たチームから先に公式ウォームアップを行う。
9. 公式記録用紙への監督、主将のサインは公式ウォームアップに前に行う。
10. リベロプレーヤーはチームキャプテンにも、ゲームキャプテンにもなる事が出来る。
11. リベロプレーヤーは 2 人まで登録できる。背番号の若い方のリベロを記録用紙の上段に記載する。他の選手と明瞭に異なるユニフォームを着用する。リベロが 1 人のチームは、そのリベロがプレーが出来なくなった時や出来ないと判断された時、監督はその時点でコート上に居ない (リベロと入れ替わった選手を除く) 他の選手を、試合終了までリベロとして再指名することが出来る。
12. アンダーシャツの扱いは、チームメンバー全員が同じ場合のみ認める。また、パワーパンツは一切見えないようにすること。
13. タイムアウトの要求は、必ず公式ハンドシグナル使用する。
14. 試合中のボールの処理は選手間で行う。
15. メンバー用紙は前試合の 1 セット終了までに本部席に、ラインナップシートは公式ウ

ウォームアップ時に副審に提出する。

16. 2 試合日以降は前試合終了後のベンチ消毒後、公式ウォームアップを開始する。2 試合日以降もプロトコールにそって行う（ただし 2 試合日以降は、前試合終了後にプロトコールの時間を放送。）
17. ユニフォームの番号は 1～99 番まで数字とする。ただし、1～20 番までに一連の数字を用いることが望ましい。
18. 試合中、ベンチの選手はウォームアップゾーンで待機するか、ベンチに着席する。
19. 部長、監督、コーチ、マネージャー、トレーナー、選手の最終登録は代表者会議後指定時間までにエントリー追加・変更届を提出し（追加・変更が無い場合も提出）決定する。それ以後は部長、監督、コーチ、マネージャー、トレーナー、選手の背番号の変更は一切認めない。違反が発見されたセットまたは試合は、ペナルティーとして不戦敗（0-25 または 0-2）とする。
20. ベンチには部旗（矢尻を外したもの）、飲料水、救急用品、消毒液などの必需品以外は持ち込み禁止とする。
21. 表彰式（コート表彰含む）において、各チームのユニフォームを着用する。但し、チームで統一するものであればジャージも認める。
22. ラインジャッジ、点示、副審（1 名）、特別記録（2 名）、I F（1 名）、リベロチェック（1 名）は割当に従い責任を持って担当する。リベロチェックの指導は後ろに立つ。
23. **コロナ感染防止対策については、JVA バレーボールガイドライン（2021.0305 更新版）に則って実施する。**
24. 感染リスクへの対応が整わない場合及び感染疑いが出た場合、大会は中止または延期する。
25. 選手及びチーム関係者は大会参加 2 週間前からの体温、咳やのどの痛みの有無、県外への移動等を記録すること。
26. ラインフラッグ、マスク、消毒液は各チーム持参すること。
27. 大会中は検温と体調チェックを行い、毎日各チーム用の健康チェックシートを本部席に提出すること。
28. 試合終了毎にボール、イス、アップゾーン、ラインフラッグなど使用したものの消毒を各チームで行う。
29. 補助役員はマスクを使用すること。ただし、熱中症に配慮して適宜外して構わない。
30. 大会中また、大会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は学連事務局に速やかに報告をし、保健所の指示に従うこと。

(注意事項)

1. 貴重品、所持品の管理はチームで責任をもって行う。
2. チームで出たゴミは原則持ち帰りとする。施設にゴミを残さないようにすること。
3. 練習会場は特に設けない。試合前の練習は注意事項を守り行うこと。特に指定された場所以外での練習は厳重に禁ずる。
4. 体育館内外での靴の区別ははっきりする。
5. 大会期間中に選手が負傷した場合、応急手当（医者に見せるまでの応急処置）はするが、それ以降の責任は負わない。
6. 各県・市町の体育館では使用上の注意事項が異なるので、代表者会議での説明にて各チームへ徹底を図る。